わざそう未来 伸ばそう力
和歌山県立 海南高等学校
海南校舎 MONTHLY TIMES
３月号　令和２年３月

第72回卒業証書授与式

３月２日（月）からの臨時休校のため、２月２８日（金）卒業式の予行演習を急遽本番に切り替えて、実施しました。静波会女性部手作りのコサージュを胸に付けた卒業生が入場し、開式。担任からクラス代表の名前が読み上げられ、各クラス代表者に卒業証書が授与されました。

湯川校長先生は式辞の中で「人には限界がないのです。何度失敗しても自分で限界を作らないでください。人には無限の可能性があるのです。」とエールを送られました。

生徒会長の井原 聡志くんは、「行事ごとの多い海南高校では、皆さんの存在の大きさを感じることも多かったように思います。特に今年の海高祭では皆様の団結力の高さを見せつけられました。文化祭の模擬店や舞台発表に向けて入念に準備し、本番で大成功させた時の皆さんの笑顔は、とてもキラキラ輝いていて、今なお目を閉じれば瞼の裏に浮かんできます。・・・そして、部活動を引退し、すぐさま受験モードに切り替えた皆さんの姿も私達は見ていました。補習に積極的に参加され、自習室に朝早くから来て勉学に打ち込む姿は、まさに文武両道の海南高校生を象徴するようでとても凛々しく見えました。そんな皆さんが残してくれた素晴らしい伝統を守り継いでいけるよう、私達一同、一層努力します。」と、送辞の言葉を送りました。

また、卒業生代表の嘉成 綾乃さんが答辞で「期待と不安を胸に抱えながら、初めて登校した日から今日までの３年間。・・・今改めて振り返ってみると、あっという間の日々でした。しかし、心に残る日々でした。毎日の勉強から解放されるクラスマッチ。普段の日々では培われるのが難しい特別な絆が生まれます。自分のクラスを応援する人、期待に応えようと一生懸命プレーする人、・・・一人一人違った個性が見えるのも一つの醍醐味でした。・・・このような数々の経験ができたのも私達が海南高校に入学できたからだと思います。私は出会いは奇跡の連続だと思っています。私は生徒会執行部に１年の夏休み明けから所属するようになりました。・・・きっかけは野球応援のチアガールへの参加でした。その時の先輩との出会いが私が生徒会執行部に入るきっかけとなったのです。・・・ここにいる卒業生それぞれにもこのような経験がきっとあるはずです。これから先にも『奇跡の出会い』というものは必ず生まれるでしょう。自分の人生と他の誰かの人生が交錯することによって様々な人と出会い、互いに自らの人生がより豊かになり、それに伴って私達が生きるこれからの社会も豊かになると、私は思います。・・・私達はこれから新しい世界に踏み出します。近い未来では、夢を阻む壁をどのように乗り越えていくか。遠い未来では、自分の将来設計はどうあるべきか、自分はどのような道を歩んでいくべきなのか。これからは今まで以上に自分で決断しなければならないことが増えていきます。だからこそ、その道も現在よりもまして決して平らな道ではないと思います。しかし、その時はこの３年間を通じて学んだことを活かし、自分の将来へと進んでいきたいと思います。在校生皆さん、高校生活はあっという間に過ぎてしまいます。自分の将来に向けて充実した日々を送ってください。」と、３年間の思い出や今後の抱負を心を込めて述べました。

例年通りとはいきませんでしたが、厳粛であり、また心温まる５０分でした。